

所属・資格 中国語中国文化学科・教授

申請者氏名 舘野 正美

研究課題		医易同源
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>医学と易学を“同源”であるとする思想は、決して珍しくない。寧ろ所謂“医易学”として、中国医学と易哲学の双方において明確にその位置を占める、謂わば基本概念である。とは言え、その場合の”易”とは、いわゆる”象数易”であり、易哲学象徴体系に中国医学の医学的理論を当てはめたものであり、本質的に易哲学と医学の関係を踏襲するものではないように思われる。そこで本研究は、中国医学の本質を示す、いわゆる〈医は意なり〉の一句が、実際のところ易哲学に根差すものであることを明らかにし、さらにそれが老子の哲学にも連なる、中国哲学のもっとも深遠な内容を踏襲するものであることを『易経』はもとより、各種の医書や、さらには『老子』にも言及しつつ明確にしてゆくものである。</p>
	研究の結果	<p>研究の結果、中国古代における医学と哲学は、その本質的な次元において共通の存在論的脈絡を有し、従って、医学は、ひとりこの哲学の線に沿ってのみ、的確に理解されるのであり、この点において、正にこの点においてこそ、医学はその正当な地位を確保出来たのであったことを明らかにできた。</p> <p>“同源”とは、実際にそれらの両者が同じ存在論的構造を持ち、実際のところ、それらが本質的に“同体”の実在であり、従って、それらが、謂わば同一のコインの両面の如き関係にあるというものである。中国古代において、医学は単なる身体技能の積み重ねに由来する医療技術のテクニカルな体系ではなく、優れて哲学的な人間存在の知的かつ身体的いなみであり、身体的鍛錬を通じて体現された〈神知〉に基づく、人間存在のあり方についての現実的判断である易学と、実際に同一の存在論的脈絡にあるものであり、この点にこそ、正にこの点においてこそ、真の“易医同源”があったのであると考えられるのである。</p>
	研究の考察・反省	<p>そもそもこの研究は私の「医学哲学」の基本を明らかにするための1つの側面をなすもので、現在において、この中国古代の叡智である中国医学を的確に、そして有益に理解しようとするならば、先ずは中国古代の哲学、延いては易学を明確に理解しなければならず、かくして初めて中国医学も正しく、かつ有効に理解され応用されるものであると思うのである。医学なき哲学は無力であるが、哲学なき医学は無謀だからである。</p> <p>その点で、いささか面はゆいが、一応の成果は上げられたと思われる。また、その成果を講演という形で、千葉大学医学部や台湾の国立台湾師範大学、さらに California State University Northridge 等において公表できたことも一定の評価に値すると思われる。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 「医易同源—医学哲学の観点から—」 『易道連ジャーナル』、第2号, pp.2-10 平成30年10月1日 協同組合 易道事業連盟	